sin スイープ信号を出力しながら、周波数応答関数を測定する操作手順を説明する。 周波数応答関数で、X軸がLIN スケールのときと、LOG スケールのときで操作が変わる。 ここでは、 x軸がLIN スケールの sin スイープ測定の操作を説明する。 この操作の前に、別紙「SIN 信号出力の操作手順」の操作に慣れてください。

以下の記述で on / off はソフトキーの反転表示 / 非反転表示 を示す。

<<p><条件> 500Hz~8kHz 1V<sub>0-p</sub>のsin X1-7°信号を出力し平均2回しながら 周波数応答関数を測定する。 周波数レンシ<sup>\*</sup>10kHz オフセット、テーパー、スム-ジンク<sup>\*</sup>は初期値のまま。 出力1/ンヒ<sup>°</sup>-9<sup>\*</sup>ンスは50とする。 オートレンジ<sup>\*</sup>、オートセ<sup>\*</sup> 미は off とする。 平均化2回

手順の流れ

オートレンジ、オートゼロを off にする。

信号を連続で出す機能を on する。

テーパー機能、スムージング(FILTER ON) 出力インピーダンスを設定する。

SIN 信号の電圧(振幅) わセットを設定する。

SWEEP CONDITION を設定する。

FRF スイッチを押し、1 画面で周波数応答関数を表示する。

平均化を on する。

測定(信号出力)を開始する。

信号出力を停止する。

(1)SIG OUT コネクタ-と chA,B 入力コネクタ-に信号結線する

下図の例では、SIG OUT を加振機の駆動信号、加振側信号(力、加速度)を chA、被加振側信号(加速度)を chB 入力コネクターに接続する。



(2) オートレンジ off にする。

Input	Anary -	Display	Memory	Output	Cond	EZ Ope-	Option
	sys		&Disk		View	ration	
<b></b>							
INPUT	TRRIGER	WINDOW	ENG.	ZOOM	FILTER&		RETERN
COND			UNIT		ISOLATE		
Á							
SOURSE	DELAY	SAMPLE	OVERLAY	SAMPLE	CONTROL	AUTO	RETURN
		LENGTH		CLOCK		RANGE	
						<b>▲</b>	
Ch A	Ch B					2 dB	RETURN
AUTO	AUTO					STEP	
$\wedge$							

Ch A AUTO、Ch B AUTO は off のこと

(オートレンジを使用すると測定に時間がかかる。)

(3) わた日を off にする。



必ず AUTO ZERO は off で使用する。

(オートレンジと併用すると瞬間信号ゼロになることがある)

(4) OUTPUT 機能の、次の設定を確認する。

信号を連続で出す機能が on のこと。

Output SIG OUT OUTPUT CONT. CONTINUを on する。

Input	Analy-	Display	Memory	Output	Cond.	EZ Ope-	Option
	sis		& Disk		View	ration	

Output				Mo	n Jan 10	10:59:1998
SIG OUT	COPY DEVICE	PLOTTER	GPIB			RETURN

Outpu	Output SIG OUT Mon Jan 10 10:59:1998										
SELECT	FRQ SET	AMPLI-	MEM OUT	OUTPUT	OUTPUT		RETURN				
		TUDE		CONT.	FUNC.						
<b>▲</b>											
Output SIG OUT OUTPUT CONT. Mon Jan 10 10:59:1998						:59:1998					
CONTI-	SINGLE	BURST	SYCLE	TIME	TIME2		RETURN				
NU											

(初期値で on )

SIG ON、テーパー機能 off、50 、フィルターを on のこと。

Output SIG OUT OUTPUT FUNC. TAPER ON、50 OHM、FILTER ON を off にする。

Input Analy- Display Memory Output	Cond.	EZ Ope-	Option
sis & Disk	View	ration	

			MON	Jan 10 10:	:59:1998
SIG OUT COPY	PLOTTER CE	GPIB			RETURN

Output	SIG OUT				Mon	Jan 10 10	:59:1998
SELECT	FRQ SET	AMPLI-	MEM OUT	OUTPUT	OUTPUT		RETURN
		TUDE		CONT.	FUNC.		

Output SIG OUT OUTPUT FUNC. Mon Jan 10 10:59:1998								
SIG.	TAPER	TAPER	50	FILTER			RETURN	
ON	ON	TIME	OHM	ON				
<b>A</b>	$\wedge$		<b></b>	<b></b>				

TAPER ON は off、 SIG.ON、 50 OHM、 FILTER ON は on のこと(初期値のまま)

### 信号の振幅を設定する。

(ア) Output SIG OUT AMPLITUDEを選択し電圧設定パューを開く。

Output	S	IG OUT						Mon Jan 1	0 10:59:199	98
SELECT		FRQ SET	AMP	'LI -	MEM	OUT	OUTPUT	OUTPUT		RETURN
			TUD	E			CONT.	FUNC.		
				<b></b>						
			AMPLIT	rude s	ET		]			
				1.000	V					
		-	?							
		数值	直キーで	1.0 と	:入力	し ENT	TER スイッチを	押し、セットマ	ける。	
						•				

(1) Output SIG OUT AMPLITUDE ON を押し確定する。

Output	SIG OUT	AMPLITUDE	Mon Jan 10 10:59:199				
ON			OFFSET				RETURN

## (5) オプションのサーボ解析機能に入り、sin スイープ条件を設定する。

UDIION SERVU を選択する	Option	SERVO	を選択する
--------------------	--------	-------	-------

Input	Analy-	Display	Memory	Output	Cond.	EZ Ope-	Option
	sis		& Disk		View	ration	
							<b>A</b>
Option					Mon	Jan 10 10:	59:1998
SERVO	TIME	Rev.TR					RETURN
	TRACE	ACKING					

Option SERVO SWEEP ON を on にし、サーボ機能を有効にする

#### Option SERVO SWEEP SWEEP PARAMTを選択しスイープ条件 ビューを設定する。

Option	SERVO			Mon	Jan 10 10:	59:1998
SWEEP	SIG.SEQ	SIG.SEQ	Vrenge			RETURN
	CONTROL	SET				
A						

Option	SERVO SWEE	EP			Mon	Jan 10 10:8	59:1998
ON	SWEEP	SWP ST-	CLEAR	MARGIN			RETURN
	PARAMT	SP.SET	MEM				



SWEEP KIND

ここでは、"0(LIN)"を指定する。

LIN: X軸LIN スケールで周波数レンジの800等分(等間隔)の周波数ごとにスイープを行う。
(スイープ周波数の間隔(分解能)は データ長2048 800分解能固定になる。)
LOG: X軸LOG スケールで等間隔になる周波数で、sin スイープを行う。

START FRQ, STOP FRQ

LIN スイープの周波数範囲の下限周波数(START) 上限周波数(STOP)をラインポイントで設定する。 周波数とラインポイントの関係式は ラインポイント=(ライン数)×(START・STOP 周波数)÷(周波数レンジ) ライン数: データ長 2048 点 800 ライン 固定

(例)周波数レンジ 10kHz 、START 500kHz、 STOP 8kHz、データ長 2048の時 START ラインボ イント = 800 × 500÷10000 = 40 STOP ラインボ イント = 800 × 8000÷10000 = 640

SWEEP DIRECTION

スイープの方向を指定する。

+: START 周波数 STOP 周波数の方向にスイープする。

- : START 周波数 STOP 周波数の方向にスイープする。

AVERAGE No.

分析の平均回数を設定する。 AVG スイッチ on で機能が有効になる。

< sin スイープの方法 >

- ・1 スイープの方法は、1データ長(2048 点)をサンプリングするまで1ラインポイントの周波数を保持して 出力し、FFT 分析を行う(1単位)。
- ・その後次のラインポイントに移行してその周波数を同様に出力する。
- ・これを START ラインポイントから STOP ラインポイントまで順次実行する。
- ・信号の出力時間と FFT 分析時間の同期を取った方式でスイープを行なっている。
- ・周波数応答関数またはスペクトル表示のX軸 LIN スケールの分解能に一致するスイープになっている。
- ・平均化有効のときは、FFT 平均回数分測定するまで 1 ラインポイントの周波数を保持し、次のラインポ イントに移る。

DELAY TIME

信号周波数が次のラインポイントに移動し、サンプリングスタートまでの時間0~9999秒を設定する。

加振機など機械系振動がその周波数で安定した振動をするまで分析を待つ機能。

SWEEP WIDTH, SIG KIND

この組み合わせ設定の内容で、スイープ信号の種類が変わる。

たとえば

・ WIDTH = 10 に設定すると、

周波数帯域を 10 ラインポイント1 単位とし、

単位毎のスエプトサイン(SWEPT)信号で、スイープを実行する。

単位毎の疑似ランダム(M.SIN)信号でスイープを実行する。

・ WIDTH = 1 にすると、

単一周波数(sin)信号でスイープを実行する。

(注)ここで説明しない項目はLOG スイープに関する設定なので省略する。

# (6) 測定結果データの消去

測定開始 START スイッチを押したとき、

先に測定表示されているデータをクリア(消去)する場合はCLEAR MEM を on にする。 先のデータの上に新たに測定するデータを上書きする場合は off にする。

最初に Output メニューのスエプトサイン、ランダム信号で測定後、共振点付近を Sin スイープで 上書きするなどができる。

Option SERVO SWEEP CLEAR MEMを on する。

Option	SERVO SWEE	P			Mon	Jan 10 10:8	59:1998
ON	SWEEP	SWP ST-	CLEAR	MARGIN			RETURN
	PARAMT	SP.SET	MEM				

初期値は on

(7) スイープ終了時、電圧をゼロにするには

Option SERVO Vrenge AMP MIN を on する

Option				Мо	n Jan 10 1	0:59:1998
SERVO	TIME	Rev.TR				RETURN
	TRACE	ACKING				
Á						

Option	SERVO			Мо	n Jan 10 10	0:59:1998
SWEEP	SIG.SEQ CONTROL	SIG.SEQ SET	Vrenge			RETURN

Option	SERVO V re	enge		Non Jan	10 1	0:59:1998
Ch A	Ch B	AMP				RETURN
AUTO	AUTO	MIN				

(注) AMP MIN が off だとスイープ停止周波数の sin 波を出力したままになる。

- (8) FRF スイッチを押し、周波数応答関数を表示する。
- (9) 平均機能を on にする。 AVG スイッチを on する。

(10)スイープ、計測を開始する。 START スイッチを on する。

(注) スイープ解析を開始するとオーバラップ量は0% になる。
再計測開始するには START スイッチを押す。

	sis		& Disk		View	ration	
				<b>A</b>			
Output	SIG OUT				Mon Jan 1	0 10:59:19	98
SELECT	FRQ SET	AMPLI-	MEM OUT	OUTPUT	OUTPUT		RETURN
		TUDE		CONT.	FUNC.		

	Output	SIG OUT	OUTPUT FUNC.	SIG. ON 反転表示を止める。
--	--------	---------	--------------	-------------------

Analy- Display Memory Output Cond.

Output S	SIG OUT OU	TPUT FUNC.			Mon Jan 1	0 10:59:19	98
SIG.	TAPER	TAPER	50	FILTER			RETURN
ON	ON	TIME	OHM	ON			

 $\Lambda$ 

Input

SIG. ON を off にする。

(注)再度信号出力するには、SIG ON を on 、START スイッチ on する。

- ボード線図を表示するには -

sin スイープを実行後、ボード線図を表示するには

- (10) FRF スイッチを押す。
- (11) PHASE X1ッチを押す。 位相表示画面になる。
- (12) SECOND スイッチを押す。 画面が 1/2 になり、上画面表示になる。
- (13) FRF スイッチを押す。 ゲ イン MAG 表示が下面に表示される。
- (14) ホ ト 線図表示機能を on にする。

DISPLAY DISP COND FRF BODE ON を on する。 Display Output EZ Ope-Input Anary -Memory Cond Option View &Disk ration sys DISP UNIT SCALE SEARCH LIST 3 D SCREEN RETURN COND ARRAY CONFIG Á FORMAT LABEL INHIBIT NYQ.ORB FRF COHE -RETURN RENCE Á BODE NICO RETURN ON

BODE ON を on するとボード線図が表示される。

(注) ボード線図を解除するには chA SPECT または TIME スイッチなど表示したいデータのスイッチを押す。

EZ Ope- Option

#### (15) PHASE のY軸表示スケールを変更する。



ADJUST SET	DEFAULT	MANUAL	NUMERIC	UNWRAP	DELAY +	DELAY	DELAY	RETURN
						ADJUST	SET	

▲ **▲** ▲

(16)MAG (ゲ イン)のY 軸表示スケールを変更する。

(これは測定後のデータの表示スケールを変更する機能で、測定時の電圧レンジとは違うので注意)

DISPLAY SCALE Y-AXIS FRAME SET でたューを開く。

Input	Anary -	Display	Memory	Output	Cond	EZ Ope-	Option
	sys		&Disk		View	ration	
DISP	UNIT	SCALE	SEARCH	LIST	3 D	SCREEN	RETURN
COND					ARRAY	CONFIG	
		<b></b>					
X-AXIS	Y-AXIS	GAIN	PHASE				RETURN
	<b></b>						
DEFAULT	FRAME	KIND	AUTO		FRAME	KIND	RETURN
	DEFINED	DIFINED			SET	SET	
					<b></b>		



がインの上下限スケールをキーインし ENTER を押す。

RETURN

スケールを確定する。

DISPLAY SCALE Y-AXIS FRAME DEFINED を on する。



周波数ズーム機能を併用したスイープ-

DISK UTILITY HP8L

ZOOM 機能を on する事により、X 軸分解能をあげたスイープが可能になる。

(8)と(9)の間に、(80)の操作を実行する。

BIT HEP

(80) ズーム周波数範囲を設定する。

Input ZOOM ZOOM ON でウインドゥを開く。

